

2021年度第1四半期決算説明会
主な質疑応答

● 全社

Q：第1四半期実績は、前回予想の前提となる社内計画に対してどの程度上回ったのか教えて欲しい。

また、その要因を教えてください。

A：売上収益は250億円以上、事業利益は100億円以上上回った。

事業利益は、オフィス・ホームプリンティング、商業・産業プリンティング、ビジュアルコミュニケーション、マニファクチャリング関連・ウェアラブルで同程度上回った。

マニファクチャリング関連・ウェアラブルでは、マニファクチャリングソリューションズ事業と水晶デバイスが上回った。

それぞれの事業で、想定以上の需要があったことや販管費が計画以上に抑制された。

Q：第2四半期以降の前提を教えてください。

A：主要事業・商品の需要は旺盛である一方で、半導体などの部材調達難は継続し、また、物流の混乱も継続する見込みである。これらは、今期中の解消は見込んでいない。

これに伴い、需要増の影響を見込むものの、半導体などの部材は、代替品への切り替え対応やサプライヤーとの調整を進めているが、すべての需要増に対応することは困難な状況であり、供給制約が継続すると同時に、前回予想以上にコストも増加する前提。

● ホーム・オフィスプリンティング

Q：第1四半期の利益が非常に高いのに対して、下期に向けて減速していく予想に見えるがその要因について確認させてほしい。

A：第2四半期以降は、物流費や部材費のコストアップを見込んでいる。

加えて前年度高止まりした販売価格がある程度下がる予想としていること、販管費も第1四半期は抑制を継続したが、今後の販売活動の中で執行することなどが要因となる。

Q：大容量インクタンクモデルの数量がかなり増えているが、その要因を教えてください。

A：大容量インクタンクモデルの販売は、新興国のみならず先進国、中国と全ての地域で伸長している。

新興国地域でも、新型コロナウイルス影響下において在宅印刷・在宅学習の需要も増えており、用途がかなり広がってきていると認識している。

Q：本体販売の伸長に対して、インク販売が減少している要因を教えてください。

A：エプソンは安価な印刷を実現する大容量インクタンクモデルへのシフトを進めているため、インクの売上収益は緩やかに減少している。

● 商業・産業プリンティング

Q：商業・産業プリンティングの販売が伸びている。その要因について聞かせてほしい。

A：新型コロナウイルス影響からの回復と新製品効果がある。

特にテキスタイル、サインージ、ラベル向けに手応えを感じている。またプリントヘッド外販も中国を中心に案件が増えており、今後も利益成長に貢献すると考えている。

●ビジュアルコミュニケーション

Q：プロジェクターの需要や競争環境に変化があれば教えてほしい。

A：プロジェクター市場の厳しさは継続しており、フラットパネルディスプレイの攻勢などで市場は若干縮小していくという見方は変わっていない。

このような中でも、足元では欧米中心に教育案件の需要が回復していることや、巣ごもり需要でホームプロジェクターの市場が伸びていることは、前回予想から好転しているといえる。

●マニュファクチャリング関連・ウェアラブル

Q：ロボットについて、足元の受注の状況と第2四半期以降の市場見通しについて教えてほしい。

A：ロボットに関しては、中国でのソーラーパネルやリチウムイオンバッテリーなどの案件が獲得できたこともあり、第1四半期は計画に対して上回った。

今後は、欧米の自動車関連向けを含めて回復しつつあるため、堅調に推移していくと予想している。

以上